

担任とサポーターそして電子情報ボードで行う小学校英語活動

—Let's Enjoy English!—

横浜市立立野小学校 教諭 出口 和生

exit@u01.gate01.com

キーワード：小学校、英語活動、電子情報ボード

1. 研究の目的

英語活動において、英語を得意としない教師が授業を行う場合、資料提示や発音に関する補助教材が必要になってくる。その一端はサポーターと呼ばれる地域協力者の参加で可能であるが、サポーターに頼るだけでなく、自らの手で子どもたちの意欲を高め、学習効果を高める仕組みも必要となってくる。そこで、電子情報ボードを活用した実践を作成中の英語活動カリキュラムやこれまでの電子情報ボード実践例を参考にして構成していくことを考えた。担任とサポーターと電子情報ボードという3者の連携を図った授業という新規性も見えてくる。

また、既存のコンテンツを活用した授業実践を行うだけでなく、独自コンテンツの開発を行い、担任主導でサポーターが協力する体制下での電子情報ボードの有効活用方法を検討実践する。

2. 英語活動の構成と電子情報ボード

小学校の英語活動では、中学校英語で目指している英語の言語習得そのものを目的とするのではなく、英語に慣れ親しみ、英語への興味・関心や意欲を育てることが求められる。そこで、音声による聞く・話す活動を中心に、子どもたちが無理なく英語に慣れ親しみ、「英語って楽しい」と実感できるようなトピック（題材）や言語材料（単語や文）、活動内容を設定している。

授業では、限られた時間で、触れた英語がより内在化するように、できるだけ多くのインプットとアウトプットができる活動内容を工夫している。その際、英語を使った多様な活動形態を取り入れるようにしているので、この活動の中で、発音補助やウォームアップのフラッシュカードなどとして電子情報ボードを取り入れることは、自然な流れとして行うことができた。

9 展開（第2時） Aパターン：30分

過程 (時間)	主な活動（※留意点）		
	子ども(C)	担任(T)	サポーター(S)
Warm-up (5min)	○フラッシュカードゲームを行う。 ・電子掲示板に表示された国名を(S)の後に、みんなで発音する。	○フラッシュゲームを行う。 ・簡単にルール説明をする。 ・電子掲示板システムの操作を行う。	○表示された様々な国名を発音する。
Activity (18min)	○自分たちの行きたい国の英語での言い方を知る。	○いろいろな国の国旗を提示し、サポーターとデモンストレーションをする。	○(T)とデモンストレーションをする。

S : Where do you want to go ?
T : I want to go to ~.
S : Why ?
T : (I like ~. で答えられない場合、日本語でもOK)

China Korea America UK Australia France
Germany Italy Brazil Russia Egypt Belgium
Ireland Thailand . . .

準備 掲示用大型世界地図、国名の分かる絵カードなど、フラッシュ用電子掲示板国の場所とサイン書き込みができる世界地図カード、スキット掲示物

図1 英語活動活動案の一部

3. 「夢の世界旅行」実践例

2005年12月16日（金）に行われた神奈川県教育委員会小学校英語活動／横浜市教育委員会英語活動の研究発表会において、6学年「夢の世界旅行へLet's go!!」の中での電子情報ボード活用実践公開を行った。

この実践では、事前の児童アンケートで把握した「将来行ってみたい国」の名称と国旗がワンタッチで表示されるような自作コンテンツを作成し、フラッシュゲームとしての活用と児童が自分で確認するための活用の2場面での活用を行った。（コンテンツとしては、別トピックの「アルファベットと仲良し」での活用も考え、汎用性を持たせるため最終的にはA～Zで始まる国名を40カ国作成した。）



写真1 児童が操作している場面

4. 成果と課題

電子情報ボードの活用はタッチパネルでの操作性やその提示画面の大きさなどの点で児童にもサポーターの方々にも好評を得ることができた。また、この後の他クラスでの実践ではサポーターが自ら操作する場面や児童が発音しながら操作するなどの発展も見られ、英語活動の中での電子情報ボードの活用は効果的であることが認識された。

本校の場合、サポーターの方々が発音面でのサポートを十分に行ってくれるので、電子情報ボードの役割はその大画面とタッチパネルでの操作性ということに絞られてくる。しかし、やはり電子情報ボードでの英語発音機能や操作を保存してのファイリング機能など、その機能をフルに活用しているとは言えない点が残念であり、今後の発展も考えていきたい。